研修報告書

三原市立久井中学校
小廣川　和恵

１　はじめに

背中にパソコンを背負い，日本を出発して飛行機搭乗８時間後，時計の針を１９時間マイナスにしてホノルル空港に到着した。中学校英語教育に携わって１４年が過ぎたこの夏，私は広島県英語担当教員語学研修に参加させていただいた。３週間，ハワイ州立ハワイ大学カピオラニ・コミュニティーカレッジ（KCC）で学んだ。試行錯誤を繰り返しながら指導を続けてきた教職経験を振り返り，自分の指導スタイルを見つめ直す貴重な研修機会を与えていただいたことをありがたく思う。

研修前，私は生徒が学んだ知識を活用して意欲的に思考表現したり，英語を使って積極的にコミュニケーションを図るための指導について学んだりしたいと思っていた。そして，今回の研修を通して、日々の授業でどのような工夫や取組が必要かを学んだ。また，自分自身も英語を通して思考し，表現することを経験できた。研修を終えた今，学んだことを振り返ってみたい。

２　カピオラニ・コミュニティーカレッジ（KCC）について

KCC はダイアモンドヘッドの麓に位置し，植物公園を思わせるほど数多くのサボテンや巨大な木々，色鮮やかな花々があり，自然豊かで手入れの行き届いたキャンパスである。遥か遠くには海と青空を見渡せ，小鳥が飛び交いマングースが自由に走り回っている。建物にはハワイ語で植物の名前が付けられており，自然や文化を大切にされていることが窺えた。アジアを中心に海外から多くの留学生が集まっている。

KCC のカリキュラムは，Content-Based Instruction（CBI）に基づいている。CBI とは内容に焦点を当てた教授法で，あるテーマを様々な角度から研究する。その過程で英語の４技能を統合的に活用するため，テーマについての研究を深めると同時に英語力を身に付けることができる。外国語学習者にとって効果的な学習方法である。私たちの今回の研修も，CBI の手法で「英語教育」について講義や演習を行いながら，最終的に研究発表をすることを目標とし，英語の技能を高めることができるようにプログラムされていた。

３　講義内容と演習

Malm 教授は常に前向きな姿勢で，共感的に私たち研修生を指導してくださった。考えを出すためのブレーンストーミングと自由に自分の思いを書くフリーライティングを繰り返し，研修を進めていくにつれ，自分の課題が絞られてきた。それは Malm 教授が，外国語を学ぶ際に一番大切なのはモチベーション（学習動機）だと言われたことで明確になった。小学校から中学校への英語学習の接続の中で意欲が低下していく原因が何かを考えたときに，自分の授業では次のような課題があると思った。タスクや活動の工夫が足らないこと，流暢さよりも正確さばかりを見てきたこと，思考，表現する機会を十分に与えていなかったこと。それらの課題に対してどのように授業改善したらよいか，Malm 教授はアドバイスや解決の手がかりをくださりながら，その後の研究テーマに結び付くように導いてくださった。

研修中，毎日２種類の宿題があった。その日に行ったことやテーマに沿って１０分間自由に書くフリーライティングと参考文献のリーディングだった。

フリーライティングは，慣れてないが故に１０分が１０分で終わらず毎日書くことは大変だった。Malm 教授は，フリーライティングの目的は文法ではなく流暢さだと言われた。「プレッシャ

ーなく自由に書くことを楽しめばよい。どんなことでもいいから思い付いたことを書く。答えに正解も間違いもないからできるだけ多くの考えを書いてみる。」等のアドバイスをくださった。不思議とだんだん抵抗なく書くことができるようになり，書き続けることの効果を実感した。

リーディングの宿題については，読む領が膨大で真夜中を過ぎても読み終わらず、丁寧に読んでいたのでは到底間に合わなかった。寝不足になり，翌日の授業で目を開けたまま意識がなくなり，ハッとすることもあった。Malm 教授は,「早く読むこと。素早く情報を見付けること。詳細と概要を見分けること。」等のアドバイスをくださった。難しい内容でも，ワークシートの質問事項に沿って読んでいくと，そこが手がかりとなり，どうにか概要が分かってきたり，１回読んだだけでは分からなかったことが,３回読むとぼんやりとではあるが分かった部分もあったりした。翌日の授業では、そのテーマに関しての考えや自分の経験を聞かれた。読んでいなくても経験上答えることができたとしても，読んでいたらより具体的に授業が理解でき，意見を言うことができるといった効果があった。

また，リーディングに関して Dudzik 教授から次のようなポイントを教えていただいた。通常言語学習には，少しだけ難しいと思われる読み物を使う。逆に読むことに慣れさせるためには学習者が楽しみながら読めるように、少し簡単だと思われる読み物をたくさん出して量をこなすとよいと言われた。このことから，生徒のリーディングの宿題を考えるヒントをいただいた。

このように，ライティングとリーディングの課題は大変であったが，思考力・表現力を高める手段であり，スピーキング・リスニング力の基盤となることも体感できた。

授業の中では，フリーライティングをしておくことで，話しやすくなった。例えば,「インターラクション」とはいったいどういうことか，まず自分の考えを書く。辞書で調べることも大切だが，その前に自分の意見をもつ。考えやひらめいたことを発表し，意見を出して話し合い，定義する。さらに人の意見から学ぶ。教授が足りない部分を補ってくださる。自分では思い付かなかった考えになるほどと思う。その過程がおもしろかった。そして,「インターラクション」の定義をした後，実際に活動を体験した。他の人のライティングにコメントを書くこと，物語を作って交流，宿題のライティングを活用した文法の訂正，リーディングとライティングを結び付けた活動，インフォメーションギャップを使った活動等を通して，関わり合いながら学習することの楽しさを実感した。これらのことは，今後自分の課題であるタスクや活動の工夫をしていく上で，大変参考になると思った。

４　自分の教育哲学

研修の中頃，自分自身の教育哲学を書いた。教師としてのモチベーションは何か，生徒のモチベーションを高める工夫は何か，学校教育目標の中で英語教師としてのミッションは何か等，自分の信念と方針を確認する大切な作業となった。

私は，生徒の目が輝いたときがうれしい。生徒が作品を完成したり，課題を達成したりして喜ぶ瞬間なと，成長が見えたときが最もうれしい。詩を書いたり，スキットや暗唱，スピーチに挑戦したりして，生徒自身が満足する創作活動が好きである。生徒のアイデアに驚かされる。これらの活動には時間がかかり，現状では十分にできていないが，研修で学んだことをヒントに今後工夫していきたいと思う。書き進める中で，Malm 教授から意見や共感的な感想がもらえたことが，さらに考える意欲へと繋がった。

また，学校教育目標の中で,「社会の変化に柔軟に対応するとはどういうことか。社会の変化とは地域の変化か。」と聞かれた。私は,「地域だけでなく国際的な社会の変化に対応できるように。」と答えた。さらに,「なぜ大切か。よい仕事を得るためか。」と聞かれた。「不景気な社会で経済的に見通しがもちにくい世の中, なんとか夢や希望を見出してほしい。世界に目を向け, 様々な人々

とコミュニケーションを図る中で視野を広げ，人との関わりを喜びとし，未来に希望をもって，何ができるかを考えてほしい。」と言った。すると，Malm 教授が,「同じ思いで教育をしていることが嬉しい。」と言ってくださり，そのことが嬉しかった。

この教育哲学を書くことを通して，自分の中で漠然としていたものが明確になった。書くことで形に残る。自分の努力の成果が見える。次のモチベーションへと繋がる。生徒が思考・表現するとき，自分との関わりで考えて書くことがいかに大切か，教師のフィードバックがいかに生徒の意欲を高めるか，教育哲学を書く体験を通して改めて学んだ。

５　ホームステイ

週末，２泊３日のホームステイをさせていただいた。私のホストファミリーは Robin という女性と彼女の息子で１５歳の Kasey だった。一緒に研修に参加した谷貝先生のホストファミリーが Robin の両親だったため，私たちはほとんど一緒に過ごした。彼女らが笑顔いっぱい私たちを歓迎し，料理でもてなし，写真を見せながら家族のことを紹介してくださったことに感激した。

私がホームステイをする際にしてみたかったことが２つあった。１つは茶道を紹介することだった。日本から抹茶と茶筅と茶碗，そしてお菓子を持っていき，お点前をしてふるまった。抹茶の立て方やお菓子とお茶の楽しみ方などを伝えることができ，ホストファミリーに喜んでいただいたことが嬉しかった。

もう一つはインタビューをビデオ撮影することだった。ハワイの人たちの日常生活を日本に帰って生徒に見せたいと思っていた。生徒と同世代の Kasey と元プロ野球選手であるおじいちゃん，そして偶然同席したドイツとスイスの留学生に協力してもらい，自己紹介と簡単な質問に答えてもらった。カメラを向けると笑顔で自然に話してくれた。実はインタビューする自分が一番緊張していたが，生徒に実際のコミュニケーションを伝えるために，こんなチャンスは今しかないと思って撮影を続けた。生徒へのお土産になっただけでなく，自分自身にとって良い経験となった。

６　校外学習

ハワイの歴史や文化を学ぶために，Malm 教授は私たちをプランテーションビレッジとビショップミュージアムに連れて行ってくださった。ハワイは観光地として有名であるが，私はどのようにハワイの社会が構成されてきたかを知らなかった。そこで，この校外学習はハワイと日本との結びつきや国際化の経緯を理解するよい機会となった。移民の歴史とネイティブハワイアンの伝統文化の一端を学びながら、それらを今日も大切にしているハワイの人々の精神を感じることができた。

プランテーションビレッジでは，砂糖プランテーションの歴史について話を聞いたり、労働者が生活していた家を再現した建物を見学したりした。１９世紀後半，中国，日本，ポルトガル，プエルトリコ，フィリピンといった多くの国から移民を労働者として受け入れたそうだ。移民の初期の生活は大変であったことが窺えたが,集まった他民族の人々が時刻の文化を大切にしつつ，生活を共にする中で他国の文化からも学び，協力して新しい社会を作っていかれた様子が伝わってきた。ハワイの人々の協調性や寛容性の源が分かったような気がした。

ビショップミュージアムでは，神や自然を崇拝し，伝統を大切にしてきたネイティブハワイアンの暮らしを知ることができた。文字をもたなかった彼らは，子から孫へとフラを通して伝統を伝えたそうである。ここで，首飾りのレイ作りとフラの踊りを教えていただく機会があった。フラの歌詞には恩恵をもたらす滝への感謝の気持ちが込められ，ハワイの大自然に思いを馳せることができた。そして，自分で作ったレイを首にかけ，フラダンスを踊り，自分が自然と一体化したように感じ，富良野すばらしさを体感できた。

７　研究論文とプレゼンテーション

研修の後半，研究論文を書いた。教科書本文の内容を活かしながら４技能の中でも特にリーディングとライティング活動の統合に焦点を当てた指導を研究した。新学習指導要領の中では，４技能の統合が強調されている。CBI の手法も４技能を統合的に扱う中で言語を身に付けるものである。Malm 教授や Dudzik 教授の講義や演習を通して，説明を聞きながらメモを取ったり，自分の意見を書いて発表したり，他の研修生の文章を読んで感想を書いたりといった統合的な学習を実際に体験する中で，思考の深まりを実感した。また，CBI は内容を重視した教授法であることから，セミナーを通して英語教育という一貫したテーマについてスパイラルに学ぶ中で，集中力が高まっていくのを感じた。そこで，自分も CBI の手法を参考に内容を活かし，生徒に興味を与える授業ができたらと思った。教科書本文をどう解釈していくか，内容に興味をもたせるためには何が必要か,どのような活動を仕組めばよいかなど,教材研究の視点を考えることができた。そして研究の過程で Malm 教授や Dudzik 教授から助言や励ましがあったからこそ，短期間で研究論文をまとめることができた。

研修の最後に研究論文の発表をした。パワーポイントにアウトラインをまとめ，プレゼンテーションを行わなければならなかった。やっとの思いでパワーポイントを完成し，発表用の原稿を書く間もなく，キーワードをもとに伝えなければならなかった。３週間の研修のまとめである。学んだこと全てを出しきろうと思った。本番では，Richard 学長を始め，スタッフや訪問したハワイの教育委員会の方々も参加してくださった。説明は十分ではなかったと思うが，参加者の反応を見ながら，考えを伝えることができた。大きくうなずいてくださったり，驚きや共感の表情を返してくださったりしたおかげで、プレゼンテーションを最後まで続けることができたのだと思う。さらに驚いたことは，それぞれ参加者の方々が，時間をかけて質問や意見，感想を言ってくださったことだ。自分たちの発表に対して反応を返してくださったことが，研究の努力を認めていただいたように思えてうれしかった。

８　おわりに

３週間の研修を通して，Malm 教授が私たち研修生を研究発表を終えるところまで高めてくださった。最初に行ったブレーンストーミングによる課題設定，学んだ指導理論，活動の効果，教育哲学で向き合ったミッション，その後の研究論文の内容が結び付いて，最終的にすべてが繋がった。それは，まるで難しかったジグソーパズルが完成したときの驚きと喜びのようであった。また,コーディネーターの Tom さんを始めとするスタッフの方々が研修に集中できるように常に配慮してくださった。親切に対応してくださったことや温かいご指導に感動した。そして，一緒に研修に参加した谷貝先生，岩本先生にも大変お世話になった。協力したり励まし合ったりしてきたからこそ３週間を乗り切ることができた。KCC で学び，異文化に触れ，いろいろな人との出合いを通して，たくさんの感動があった。体験や人との交流が宝物だと思っている。感謝の気持ちをどのように伝えたらいいか。どう返せばいいか。まだまだ自分には表現力が足りない。もっと伝えたいから学び続けたい。今回の語学研修を通して英語力を高め，指導法について学んだだけでなく，学習者としての学ぶ喜び，意欲も高まった。これから生徒と向き合うときに，感謝の気持ちをもって自分が受けたように共感的に接していきたい。そして生徒にもいろいろな感動体験ができ留用に支援し，学ぶ意欲を高め，力を付けていきたいと思っている。

最後に，貴重な研修機会を与えてくださった広島県教育委員会，協力していただいた方々，お世話になったすべての方々に心から感謝したい。「ありがとうございました。」